

— 1人1台タブレットの配付による「学び方」の変化 —

教育長 宇野成佳

AIやIOT、ロボット工学などの技術革新が進む中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「子どもたちの学びの保障」を確保するために、市内全児童生徒に1人1台タブレットの配付、校内無線LAN等の整備を行い、1年が過ぎました。今も、学校現場では、タブレットを用いての学習方法、情報モラルの向上、集会や会議での利用等、ICT機器の効果的な活用について実践しながら研究を進めています。

その結果、紙と鉛筆、黒板を使つての授業の様子から、タブレットとタッチペン、大型モニターで視聴する等の授業へと様変わりしてきました。また、教師用タブレット画面では、子どもたち一人一人の考えや思い、観察記録等、学習の様子が把握でき、きめ細かな指導を充実させることができるようになりました。

例えば、タブレットを活用した授業では、

- ◎ 子どもたちが撮影した動画を視聴し、より良い動き方について考える
- ◎ インターネットで知識を得たり情報を調べたりして、自分の意見をまとめる
- ◎ 友達の意見、を比較して、グループで、あるいは学級全体で話し合う
- ◎ 国語、算数、理科、社会等の問題を個別に学習する

など、様々な取り組みが行われています。

タブレットを活用する学習方法が増えたことで、「教師が教える（インプット中心）」から「子どもが学びとる（アウトプット中心）」へと、以前よりもさらに子どもたちが主体となる授業を展開することができています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学級閉鎖や学年閉鎖等を実施した時には、タブレットを通してのオンラインによる学習支援に加えて、お互いの顔（マスクなし）を見ながらオンライン朝の会を実施して、健康観察や子どもたちの様子を知ることができました。

その他にもタブレットの使い方や注意点等を考える授業を行うなどして、タブレット活用ルールや情報モラルについて学び、健康に留意し、安心して活用できる態度を育てています。

今年度も、タブレットやICT機器を効果的に活用して、子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実現を目指し、「自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力」を育てていきます。